

こどもカレンダーを普及してください

空も高くなり、木々も色づきにも秋も深まりを感じます。

今年のとねっこの「うんどうかい」では、順位や能力を競い合う種目はほとんどありませんでした。日ごろ保育園が大切にしている、一人ひとりの意思を大切にし、意欲的に取り組み、笑顔が輝くような内容にしようとしたとき、順位や優劣は必要でなくなります。もすればマニュアル化され、指示がなくては動けない、自分で考えなくてすむ(考えてはいけない)風潮が強まる中、自分自身をしっかり持って育つことを大切にした保育・教育が求められているように思います。今年の“うんどうかい”では、子どもたちが自ら動き、自分で楽しさを作り出す。また保育者・親たちからも先回りをして“指示”するような言葉掛けがなく、自由さと楽しさにあふれた運動会になったように思います。

さて、今年も各地の保育園やアトリエの子どもたちの絵による、すてきなカレンダーが出来上がりました。。ここに取り上げた子どもたちの絵は、一人一人の子が、『自ら感じ、自ら考え、自らを表現した』絵ばかりです。どんなに幼くても、子どもは感じるすることができます。そして、その感じたことやその子の思いを大切にしていれば、その思いを絵に現すようになります。そうしたことの繰り返しの中で、子どもは自分自身に“自信”を深めていきます。

とねっこ保育園は、相変わらず運営的には不安定な状態ではありますが、『絵を描く会』や『体験保育』はたまたインターネットで知ったなど、様々なかかわりを通じて保育園を訪ねてくれる親子が増えています。その中から、毎日はいずれにしても週に1回とか2回、保育園に通ってくる子も出てきています。そんな子が、「これがこの子の本来の笑顔だな」と思える笑顔を見せてくれたときに、本当に嬉しくなります。そんなことを力にしながら、職員一同はわりと元気に保育にまいりしている状況です。

最後にはお願いですが、例年同様、今年もカレンダーの普及にご協力をお願いいたします。園全体では1200本のカレンダーを普及し、建設費の返済に充てたいと思っています。保育園だけの力ではとてもやり切れる数ではありませんので、皆様のお力をどうかお貸しください。お友達、お知り愛の方に、お声をかけてください。よろしくお願いいたします。

とねっこ保育園 小松原正子